

環境基本計画検討小委員会(第1回)での主なご意見と対応方針

いただいたご意見	対応方針
計画全般について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ため池、里山、森林を分けて考えるのではなく、それを包括して、グリーンインフラという概念で考えることが今後のテーマかな、という気がした。その中に生物多様性の話も包含されている気がする。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラも含めた「環境・経済・社会の統合的向上」について、「今後の環境施策の展開の基本的な考え方」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・国資料にある「地域循環共生圏形成」については、兵庫県の場合は、日本海側と瀬戸内海側、五国や流域の話など、良いユニットがあるので、上手くまとめていくと結構良い話になるのではないかと。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域循環共生圏」について、「今後の環境施策の展開の基本的な考え方」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・第4次計画では「低炭素」「自然共生」「循環」「安全・快適」と、「くらし」「しごと」「まち」「さと」というマトリクスを組んで、それを下支えする形で「地域力」があるという構造にしているが、今回の第5次計画の骨格案では、元に戻ってしまっている。低炭素、自然共生、循環、安全・快適の要素型の問題に対して、地域力という別の視点のものが同列に書かれるのは良くないのではないかと。(小林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域力」は、他の4要素とは違うという認識で、基本的な体系は現行計画のままとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・今年、地球温暖化対策推進計画を策定したが、第5次計画の中でさらに新たな視点を加えて検討していかなければならない、という考え方なのか。(吉武委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカのパリ協定からの離脱表明や、国の適応策に係る法整備など、地球温暖化対策推進計画策定後の新たな動きを踏まえ、要否を含めて引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「SDGsの考え方の活用」と簡単に表現しているが、具体的には非常に難しい。どの考え方のどの部分をどう第5次計画の中で活用していくのか、という部分を具体的にしたい方が良いのでは。(吉武委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な便益(マルチベネフィット)、全員参加型、バックキャスト等、環境施策を展開する上で重要となる考え方を取り入れる。
<ul style="list-style-type: none"> ・統合的視点や俯瞰的にものを見て未来を描く力など、基本的な能力をどう教育と連動しながら作っていくのかを抜きに、ESDも県の環境学習活動もSDGsも、なかなか読み解いていけない。本質的なところで目指すべきところをよく整理しないと、世界的な流れだからとSDGsを出していても、ついていけないものが出てくる。課題トータル的なところでSDGsをどう見せるかということを考えないと、SDGsが前面に出てしまうと、ちょっと違和感がある。(小川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画に記載する施策がSDGsのどのゴールに貢献できるのかを整理し、記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域力」は、今までは課題としての認識もあったが、むしろ、それを作ることがトータルな課題解決の一番の底辺である。その中で、敢えて国際的な視点も入れていく努力をしないといけない。(小川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・県計画を作るときには、市町計画も吸い上げて、市町の実績を踏まえた県政評価が出来るようにすることが重要である。 ・県の審議会に市の担当者に来ていただいて、各市の計画をどういう視点で作っているのか紹介いただくような機会をいただけたらありがたい。(小川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「県内市町の環境基本計画の策定状況やその特徴」を取りまとめ、第2回小委員会で報告した。 ・市町の特徴的な事例を把握・紹介するなど、引き続き市町計画との連携手法等について検討する。

いただいたご意見	対応方針
「野生鳥獣の適正な保護・管理」について	
<ul style="list-style-type: none"> ・野生動物は、山で餌を探すよりも、里で農作物を食べた方が楽と学習しており、里での活動を防げていない、つまり里の対応力がないことが、被害を深刻化させている要因である。野生動物の管理・自然との共生を考える上で、都市部を守るという観点からも、中山間地域の里をどう守るかという方向で、今後の施策を考えて強化していただきたい。(横山委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・ザ・獣害事業等を活用し、獣害に強い集落づくりに取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、紙ベースで行っている自然環境の情報(データ)収集について、ICTを活用するなど効率化を図る必要がある。(横山委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「GIS システム活用による獣害対策の強化」等について、本文「自然共生」に記載する。
「里地・里山の保全・再生」について	
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により山の担い手がなくなった状況で、山の恩恵が減っていくことに関しては、受益者負担という視点が大事で、その恩恵を維持したいのであれば、従来のただ乗りはやめて、支払いが必要だという方向を打ち出す必要があるのではないか。 ・受益者負担するとしたら、どの程度まで負担できるのかを見定めて、森林が存在することによる様々な環境サービスを復活させるためにどこまで持ち直すのが適正なのか、考えなくてはいけない。(新澤委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・受益者負担による森づくり等について、本文「自然共生」に記載する。
指標の設定・進捗管理について	
<ul style="list-style-type: none"> ・指標として出てくる数字は、経済が成長期にあるのか低迷期にあるのか、その動きにも左右され、単純に考えると経済発展がダメという議論にも成りかねない。環境と経済と社会の統合という概念もあるので、指標を個々で見たとときの評価と、トータルで見たとときにバランス良く成長しているかどうかという評価の2段階で見ないといけないのではないか。(小川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロな評価、施策の評価、点検・評価の方法については、指標の設定も含めて引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・単純に廃棄物の総排出量を指標にしてしまうと、業種毎の増減が平準化されてしまい、あまり意味がない。本当は、原単位という考え方が合理的だと思うが、全ての業種を1つずつ評価していく必要があり、難しい。もう少し考えてみたい。(吉武委員) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・海域の環境基準達成状況や藻場面積に関して、評価の付け方に違和感があり、目標の設定と評価がちぐはぐになっているのではないか。表記の問題もある。(川井委員) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・指標や進捗管理の議論では、現況分析と施策評価を分けて、目標の設定をした方が良いのではないのか。(川井委員) 	

環境基本計画検討小委員会(第2回)での主なご意見と対応方針

いただいたご意見	対応方針
<p>P 1 社会・経済・環境の現状と課題、見直しの方針</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「社会・経済の情勢」の中に「社会インフラの老朽化」とあるが、現在、都市のコンパクト化について、「エコまち法」に基づく「低炭素まちづくり計画」と「都市再生特別措置法」に基づく「立地適正化計画」のような同じような計画があるが、もっと連携がとれるようにすべき。(新澤委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな環境課題」とあるが、新しいものはヒアリくらいではないか。ここに「新たな」という言葉を入れるべきかどうか。(権藤委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たな」を「顕在化する」と修正する。
<p>P 1 見直しの方針(案)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「施策展開の基本的な考え方(分野横断的に意識すべきもの)」に、「環境・経済・社会の統合的向上」とあるが、そろそろ本当の環境と経済を議論する必要がある。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「人材育成の強化」については、どういうふうに進めて、どういうターゲット層にきてもらうか、そこまで知恵を出す必要がある。県が開催している「環境担い手サミット」や、人と自然の博物館の「共生のひろば」のような切り口をうまく出していくと人が集まるのではないかと。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境担い手サミット」と「共生のひろば」について、本文「地域力」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについては、期間が15年くらいで、それほど長期ではないということを確認しておいた方がよい。また、環境以外の要因が多くあるので、それらを入れると他部局との調整が難しいだろうと思われる。(新澤委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境施策を推進する視点として、SDGsの考え方を取り入れるなど、ご意見を踏まえ引き続き検討する。
<p>P 2 低炭素</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・電力自由化により、消費者がCO₂の少ない事業者を選択できるようになっているので、それを利用するという方向をライフスタイルの転換の中で挙げるべき。県民に情報提供して、選んでもらえるようにしたらどうか。(中野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電力自由化について、本文「低炭素」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者庁も力を入れている「エシカル消費(倫理的消費)」は、環境にも重要な言葉になってくるので、どこかに入れられないか。(岡本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・エシカル消費について、本文「低炭素」「循環」「地域力」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・エシカル消費はどんどんやるべき。(中瀬副会長) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の「低炭素」から、あと20年も経てば「脱炭素」という形になると思われるが、「低炭素」では少し漠然としているので、例えば2025年にはこのぐらい、2030年にはこのぐらい、といった目標数値も必要ではないか。(岡本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策推進計画の2030年目標について、本文「低炭素」に記載する。 ・基本計画の指標は今後検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「利便性・快適性・経済性等を優先する建築物の集積」とあるが、昭和40年代の教科書に載っていたような記載なので、そろそろ環境性能をどう入れ込めるかを議論するべき。太陽光パネルについても、入れておいてほしい。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物環境総合性能評価システム(CASBEE)について、本文「低炭素」に記載する。 ・住宅、県立学校等の建築物への太陽光発電の導入について、本文「低炭素」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「建物の屋上緑化・都市緑化の推進」も古くなりつつあり、これからは人口が減るので、家を作っても住む人が居なくなる。空き地・空き家をどう上手く使うかを考えておかないと、空いたところを埋めるという議論ではなく、人口減少社会における「まちのあり方」を県全体で議論するべき。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家・空き地について、本文「安全・快適」に記載する。

いただいたご意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 現在のバイオマス発電は森林整備の絡みでチップ化したものが多いが、防災や豊かな森づくりといった側面での森林資源を、バイオマスに充てていくのかということについて、もう少し考えていかなければならない。CO₂吸収源としての森林など、様々な角度から取り上げられるが、大きな方向性としてどこを目指して行くのかという整理が必要で、提案の仕方によっては、山の木を伐ったら良い、といった、単純な発想になる可能性もある。(小川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマス発電の燃料としては、間伐材等の未利用木材等の有効利用を想定しており、本文「低炭素」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマス発電の現状は、供給量(燃料)を見ていない。大きな発電所をまともに稼働すると、間伐材がアツという間に無くなってしまい、海外から持ってきていたということもあるので、気をつけないといけない。大規模の発電所は、日本のように山が深く、山地が上手く使えない地形では、本来は難しいはず。(鈴木会長) バイオマス発電は、森林保護という視点での一定の投資がない限り、採算ベースには乗らないと思う。(小林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 木質バイオマス発電の燃料としては、間伐材等の未利用木材等の有効利用を想定している。 1年間に増加する材積を考えると、林業サイドとしては45万m³前後を継続的に出して、活用していこうとしており、無制限に増えるとは考えていない。
<p>P 3 自然共生</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 危険な特定外来生物はヒアリだけに留まらないので、ヒアリ等の「等」にどこまで入れるのかを考える必要がある。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ヒアリ等」を「未定着の」と修正する。 ヒアリやアカカミアリだけでなく、その他の未定着の特定外来生物についても、早期防除や定着阻止に向けた対策に取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> 受益者負担の視点から、里山を保全すればお金が落ちる仕組み、例えば里山ツアーを企画し、地主とガイドにお金が落ちるような仕組みを作らないと、なかなか難しいのでは。(新澤委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者負担による森づくりについて、本文「自然共生」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> 「野生鳥獣の適正な保護・管理」に「森林動物研究センターと連携した生息数管理」とあるが、森林動物研究センターが生息数管理をする主体者であれば、「連携」という言葉はおかしいのではないか。(小林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 「連携した生息数管理」を「研究等を踏まえた個体数管理」と修正する。
<ul style="list-style-type: none"> 「野生鳥獣の適正な保護・管理」に「シカ捕獲個体の有効活用、狩猟後継者の確保・育成」とあって、これまでは趣味で狩猟をする狩猟者に捕獲を依頼してきたという経緯があるが、今後は専門的捕獲者の育成により、計画的な個体数調整事業による捕獲に取り組んでいく、ということが大きな課題となってくる。全国的にも狩猟者と専門的捕獲者という2つの枠組みが必要という議論が進んでいるので、「狩猟後継者の育成」ではなく、「捕獲者、個体数管理捕獲者の育成」といった書きの方が、未来志向なのではないか。(横山委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的捕獲技術者の育成等について記載する。
<p>P 4 循環</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 再使用やシェアリングの活性化について、「サーキュラー・エコノミー」や「マテリアルリース」など、国内外の動きと合わせて少し強調してはどうか。県で情報提供して、県民に参加してもらう方法もあるのではないか。(中野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 「サーキュラー・エコノミー」や「マテリアルリース」について、本文「循環」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢化のためにごみの持ち出しができない、分別の仕方が覚えられない、といった問題が起こっており、超高齢社会に合わせた分別リサイクルの方向も考えていかなければならない。(中野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 「今後の環境施策の展開に向けた課題」に「食品ロスの発生抑制」とあり、「具体的な取組の方向」には「食品ロス削減の推進」とあるが、「発生抑制」と「削減」と言葉が統一されていない。(小林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 「食品ロスの発生抑制」を「食品ロスの削減」と修正する。

いただいたご意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・「具体的な取組の方向」に、「焼却灰等のセメント原料化の推進」と「大阪湾フェニックス事業の推進」があるが、どちらに誘導していくのか、そろそろ大きな方向性を示さないと、市町の現場は難しい状況になるのではないかと。(小川委員) ・これから大阪湾の経済圏も縮小していく中で、フェニックス計画全体がどの方向を向いていくのか。土地利用が減れば、処分価格は上がっていかざるを得ないが、この10年くらいの間に、大きな節目が来ると思う。市町の焼却施設の規模にも依るが、検討課題であるという認識は持っておかないといけない。(小川委員) ・(個人的な見解として)焼却灰の処理については、一義的には原料としての利用、つまりセメント工場に持ち込むべきだと思う。埋立処分は無くなってしまわないわけではないけれど、それと同時に、フェニックス事業の2つの目的のうち、港湾利用の方は段々とニーズが下がってきており、コストも高くなってきている。そういうことも考えた場合、環境部局としては、フェニックス指向型でない方が良いと思う。フェニックス事業は、廃棄物の処理場がないという状況において、苦肉の策として出てきたものなので、それを今までどおり続けていくという発想は違うのではないかと。(小林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらか一方に偏るのではなく、両者をバランス良く実施することが重要と考える。
P 6 地域力	
<ul style="list-style-type: none"> ・「乳幼児からの発達段階に応じた自然体験活動」をどうするか。ハイハイ歩きの子どもにも拡げていただければ、兵庫県の環境学習の幅が広がるのではないかと。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新兵庫県環境学習環境教育基本方針を踏まえ、「目指すべき将来像」の「幼児期」を「乳幼児期」と修正する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「県内の環境関係機関・研究機関との連携」とあるが、本当に連携されているのか。もう少し活発にやっていただきたい。(小林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・県内市町の取組を県下全体の事業としてどう見える化するかが次の課題で、県の取組と市町の取組を二段構えで表記すれば、県下全体として非常に大きな取組をしているように見えるのではないかと。市町が実際に取り組んだ成果を集約するシステムを県と市町で作って、上手く反映できるようにすれば、他県にはない全体像になると思うので、検討いただければ。(小川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の特色を生かした環境学習・教育」とあるが、「環境学習・教育」ではなく「環境保全・創造」の方が良いのではないかと。また、「丹波の森構想」が来年30周年を迎えるなど、取り組まれた年次が様々なので、そのあたりも書いた方が良い。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の特色を生かした環境学習・教育」を「県内各地域の特徴的な環境保全・創造取組」と修正し、取組年月を追記する。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組状況を確認し、入れておくべき項目とそうでないものを精査した方が良い。「北はりま田園空間博物館(でんくう)」や、兵庫県で最初の「しそ森林王国」などは、きちんとフォローしていただきたい。教育委員会がやっている「グリーンスクール表彰」や、「環境担い手サミット」「共生のひろば」など、県民の方々が盛り上がりつつある担い手、環境学習・教育をしっかりとリストアップすべき。(中瀬副会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目を精査し、「北はりま田園空間博物館」「しそ森林王国」を追加する。 ・「グリーンスクール表彰」「環境担い手サミット」「共生のひろば」について、本文「地域力」に記載する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の特色を生かした環境学習・教育」で、北摂里山博物館構想に含まれている、川西市黒川地区は「日本一の里山」として熱心に取り組んでいるので、是非「日本一の里山」という言葉を入れていただければ。(中野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえ引き続き検討する。(なお、北摂里山博物館構想は、阪神北県民局管内にある里山を包括したものである。)

いただいたご意見	対応方針
その他	
<ul style="list-style-type: none"> 資料にある課題について、計画の見直しで取り込んだものと、取り込まないで課題として残して今後検討するもの、に仕分けをして、後者については、審議会の提案、いわゆる附帯意見として、提案して、それを今後、県の方で検討してもらおう、とするのはどうか。(小林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 日本の社会にとって、人間力、人間の基礎力のようなものが低下しているということは、とても重要な課題だと思う。それを解決するためには、環境学習を子どもの時から積み上げて、職業選択する際に、高校生・大学生に基礎力があって自分で進路選択できる、といったことが大切である。兵庫県が環境学習を大きなキーワードとして出していくのであれば、その接点をどう高めていくのかという点で、担い手育成など、そういう面でも繋がりが出てくると思う。(小川委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 資料3についても、時間の許せる範囲で分析して、計画とどう繋げるかということも検討してもらえれば。(鈴木会長) 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、引き続き検討する。